

ほほえみ新聞

<http://m1-yasuragi.p2.weblife.me/>

THE Yasuragi

新ホームページを開設しました。
スマートフォンにも対応していま
す。右のQRコードからどうぞ。



2017年9月発行(第56号)

編集:やすらぎの園 広報部

E-Mail : nagano@m-yasuragi.com

所在地 : 〒388-8019

長野市篠ノ井杵淵 213-4

TEL026-293-2600 Fax026-293-2959

海外介護研修生受け入れへ

10月、台湾より1週間の予定



中国・南寧市視察団の様子(4月)

今回、視察及び介護研修生を受け入れることになったのは、台湾で介護施設を運営している私立約翰樂活護理之家。施設関係者四名が来所予定で、そのうち、台湾国内の介護士資格を有する介護士の方一名が通訳を伴い一週間、夜勤を含む介護実習を行う予定です。

日本国内における少子高齢化の問題は、広く国民間で周知される所ですが、東アジアの国々においてもその傾向は顕著で、特に台湾は日本を上回る速さで超高齢化が進むと予測されています。二〇一八年

本年四月の中国・広西チワン族自治区南寧市からの視察団受け入れに続き、長野市介護保険課からの紹介で十月下旬、台湾より介護研修生を当施設にて一週間の予定で受け入れることになりました。加速する東アジア圏の高齢化を背景に、我が国の「戦略分野」の一つとして掲げられた介護分野において、そのグローバル化の波が足元まで迫って来ていることを実感します。こうした流れを的確にとらえながら、高齢者福祉全体の増進に寄与するとともに、今後の施設運営並びに地域福祉の充実に努めていきます。

こうした海外からの視察・介護研修は今後も増えて行く事が予想されます。また、国内における介護人材不足を補うため、アジア圏を中心に海外に人材を求める動きも本格化しそうです。将来展望をしっかりと見定め、情報収集と時勢に合わせた柔軟性・発想力を持ち、これから迎える未曾有の少子高齢社会を乗り切るべく前進していくことが求められます。

今回の視察・介護研修の目的を台湾側は、「日本のように介護施設が発達しておらず、介護についての知識が乏しい状態にある。全般的な日本の介護事情や施設について視察・意見交換するとともに、介護技術についても知識を深めたい」としています。

には六十五歳以上が全人口の十四%以上の「高齢社会」に、二十五年には二十一%以上の「超高齢社会」になる見込みで、高齢社会から超高齢社会になるまで、我が国が十二年かかったのに対し、わずか七年、一・七倍の速さで進行すると言われます。



8月2日、施設建替え工事に伴い、昨年3年ぶりに復活した、やすらぎの園夏祭り「むつみ祭」が開催されました。

連日梅雨を思わせるお天気が続き、当日も空模様が大変心配されましたが、雨に遭うことなく、夕涼みには最適な陽気となり、ご入居者、ご家族、地域住民の多くの皆様にご参加いただき、大盛況のうちにすべてのプログラムを終えることができました。ご来場ありがとうございました。

旧西寺尾小学校の校歌が復活

～第3回 夕涼みコンサート～

7月29日、施設玄関ホール 地域の縁側「いこい広場」において、地域交流イベント『夕涼みコンサート』が開催されました。今回は「旧西寺尾小学校の校歌をみんなで歌いませんか」と銘打っての新企画。当施設が同校の跡地に建てられたという縁もあり、当施設デイサービスの一瀬相談員が中心となって、同校の記念誌の中の譜面や卒業生のデイサービスご利用者の証言等をもとに復活に取り組みました。

当日は近隣の方や、デイサービスご利用者、特養ご入居者が参加され、旧西寺尾小学校の卒業生という方も数名いらっしゃいました。参加された近隣の女性は、「小・中ともここの学校を出ました。懐かしくなって来てみました。」とのことで、一瀬相談員の伴奏に合わせ、童謡、唱歌などと共に同校の校歌を大きな声で歌っていました。

かつて、この地にあった旧西寺尾小学校。その校歌を地域の遺産として、この地を受け継いだ当施設が、これからも歌い継いでいきたいと思えます。



【西寺尾小学校校歌】

一、千曲の川と県道と
十字のなりに 交わりて
東西三区に分かるれど
往来運輸たよりよし

二、色こそ変われ おしえ草
進みゆく世に伴いて
一つ学びの庭のうち
栄ゆる様ぞなつかしき



やすらぎフォトギャラリー

当施設のさまざまな取り組みを皆様にご覧いただきたく、写真でお届けします。



開所記念式典・イベント(6月)



篠ノ井東小交流会(6月)



杉の子保育園・いも掘り交流会(7月)

※紙面上の入居者様の写真は、ご本人及びご家族の了承を得て掲載しています。

お盆休み前半、我が家の妻と子どもたち(小三、年中ともに男子)が埼玉のいとこのところへ泊まりで出掛けたのを良いことにその親父(筆者)は、永年思い続けた(?)夢を叶えるべく立ち上がりました。一つは、一人で魚釣りに出掛けること、もう一つは山に登ること。

一日目、某池に釣りに出掛けました。子どもたちとも何度か釣りには出掛けるのですが、やれ糸が絡まったのだの、あまりの釣れなさに飽きて、網で水辺をかき回すなど散々。密かに「いつか一人で釣りに行ってやる」と企んでいたのです。しかしながら、炎天下の中一日糸を垂れ、釣れた魚は通称クチボソ(正式名モツゴ、体長数センチ)が三匹。少々ストレスを感じつつ帰路につきました。

二日目、標高千メートル弱の某山へ出掛けました。かつては職場の先輩と白馬岳、鹿島槍ヶ岳、富士山などを日帰りで制覇したのですが、ここ七、八年はすっかりご無沙汰。今回も自信がないので比較的楽に登れる山を選んだのですが、これがどうして…。体力の衰えを痛感。やつとの思いで山頂に辿り着き、眼下に蛇行して流れる犀川の絶景を眺めながら、コンロで湯を沸かしカップラーメンでも食べようかとしたその時、「ゴロゴロ」と西の方角より雷鳴が…。慌てて荷物を仕舞い込み、撤退。山頂滞在時間はわずか五分ほどでした。

そんなわけで、親父(筆者)の夢は、不完全燃焼のうちに幕を閉じたわけですが、顔や腕は真っ黒に日に焼けたのでした。ヨシタカ

編集後記